『命の授業とぺぺさんとより子さん』の関係

こんにちは！先日の第6回『命の授業IN岡崎』ではご協力ありがとうございました。
皆さんに土日の現場をお任せして、私と崎津君とハッシーでスタッフとして参加してきました。
感想は、**『感動！感動！感動！の嵐』**でした。まさに。
今回はメイン講師として日本のがん保険を立ち上げられた松井秀文さんをお招きし、松井さんのお話をサンドイッチする形で、ぺぺさんという女性デュオとより子さんというソロアーティストのコンサートを開催いたしました。
もともと自分は大の音楽好きで、時間があると、情報誌でライブハウスをチェックして入って、何の先入観もなく初めて聴く音楽に脳みそを浸すのが最高のストレス解消法なのですが、今回も実はぺぺさんとより子さんのライブは初体験だったのでとても楽しみにしていました。
まず、ぺぺさんの演奏からだったのですが、Paix2と書いてぺぺと読み、なんと300回近くも刑務所のような矯正施設でライブを展開されている異色デュオで、ライブの感想は**『ポカポカとした陽だまりのある土手でのんびり昼寝をしたくなるようなホノボノとした幸せ感が漂っている』**という感じでした。
ぺぺさんの本『SAYいっぱいをありがとう』の中に箴言があります。
引用させていただきます。

『人は幸せな時には　その幸せの意味さえ考えようとしない。
幸せを失い、初めて幸せの意味を知り、その幸せに身を置くことに憧れる』

刑務所でのコンサートは派手なリアクションは禁止されているらしいので、受刑者の方たちは気持ちを抑えながらも、たぶん家族そろって家の近くの土手でピクニックをしているような、なんでもないような、それでいてもっとも幸せを感じるような情景を浮かべながらぺぺさんの音楽を聴いているのだろうなあと想像しました。
1回聴いただけなのにもう大好きになってしまいました。ちなみにぺぺさんの代表曲はNHK教育テレビ『ひとりでできるもん！』のエンディングテーマ曲に使われていた『精一杯の～SAY一杯の～♪』っていうあのフレーズの曲です。なんとなくわかるでしょ！
もうそろそろ紅白歌合戦に出場してもいいんじゃないの？っていうホノボノとした温かさを持ったプロフェッショナルなデュオでした。

次により子さんの紹介ですが、より子さんも凄かったです！会場全体が完全により子さんの存在感に圧倒されてました。より子さんは2歳のときに小児がん、22歳のときに卵巣腫瘍が見つかり、その闘病体験から得た命のメッセージを歌に籠め、鋭い感性で聴く人の心を鷲掴みにするアーティストです。
より子さんの本『天使の歌声』からその鋭い感性の源流を感じてください。

『小児病棟は激戦地区だ。みんな既に死のトビラを開け放って生きている者同士、
生半可な時間はどんなバカでも過しはしない。鼻をかむにも本気だ。
鼻血を噴いてなんぼや！どんなくだらない事でも全身全霊で遣り遂げようとし、
そして遣り遂げてしまうのが小児病棟のスタイル。彼等は皆ファンキーでクールで、
天才的だ。なぜ天才的か。寝ている時ですら本気（マジ）だったからだ。
365日脳味噌120％フル使用だから天才的なのだ。誰しもそうだった。
私だってそうだった。そしてある日、私は死のトビラを閉じる事が出来た。
病気に打ち勝ったのだ。それでも私は、未だに猛スピードで一秒一秒を
駆け抜ける時がある。母親からしてみれば一瞬ドキリとするかもしれない。
なぜならその姿は、小児病棟に居た死を目前にして生きている彼等の姿と良く似ているからだ。
でも私は死なない。いつかの彼等の"本気（マジ）"を受け継いだ私の魂は、今生きている事に本気になっているからだ。』

死と真剣に向き合うことで本気のスイッチが入り命を燃やす。小児病棟時代に、天国に旅立った子供たちからバトンタッチされた　『マジ』の感性で、聴く人の心を釘付けにします。
感想
『このホールから天空に突き抜ける光のような、澄んだ希望の歌声でした。天国に旅立っていった子供たちのところにも必ず届いたと思います！』

音楽って最高ですね！ホノボノにもマジにも一瞬で切り替えられる安全感性を育てて生きたいものです！
感謝！　羽原篤史

P. S. ぺぺさん・よりこさんどちらも大ﾌｧﾝになってしまいましたので、又今度ふらっとﾗｲﾌﾞに行ってみたいと思います。
ぺぺさんは10月17日（日）にみよし矯正展で、より子さんは12月2日（木）に名古屋ヤマハホールでコンサートがあります。ぜひぜひあの感動を共有していただきたいです！！